

12月号
2019.12.25

NEWS LETTER



青森県立大間高等学校 進路指導部



「3年生、合格体験記」

国家公務員一般職(関東) 31HR 青山美月

私が公務員を目指し始めたのは2年生の冬、他校に通う先輩からの薦めからでした。きっかけは些細な事でしたが、仕事内容を調べていく中で、仕事のスケールの大きさに魅力を感じていきました。公務員試験は1次と2次に分かれており、まず1次対策として3年生になってからから始まった放課後講習に参加し、数的処理・政治経済・地理歴史の3教科を勉強しました。講習が終わった後は1人で学校が閉まるまで残り、相内先生から日本史や世界史を教えてもらいました。公務員試験は範囲が広く、いくら勉強してもなかなか解けるようにならず、そんな自分にイライラして勉強が嫌になり、泣いてしまったり投げ出してしまいたいと思ったことが何度もありました。しかし、その度に励まし、支えてくれた方々の存在のおかげで最後まで頑張ることができ、国家公務員の1次試験に合格することができました。

次は2次試験ですが、その前に志望する首都圏の官庁に訪問に行かなければならず、そのまま大間に戻らず盛岡市で2次試験を受けることになりました。面接練習をできる時間が短く、土日学校に行き、先生と対策をしました。官庁訪問は、さいたま市にある国土交通省の関東地方整備局という所へ行きました。関東地方整備局はインフラ整備や被災地支援をする国土交通省内の局であり、関東の道路や河川を整備し、国民の生活や日本経済を守るという使命の大きさに魅力を感じました。官庁訪問と2次試験へ行くにあたり、面接練習だけではなく公務員のあり方、関東の地理、関東地方整備局の仕事内容について短時間でレクチャーを受けました。特に、私は治水の業務に興味を持ったので、関東の治水の歴史について勉強しました。官庁訪問は面談形式でリラックスした雰囲気でしたが、盛岡市での2次試験では面接官の方の態度が冷たく感じられ、私の答えを否定して次の質問をしていくということが続いたので受験後には不合格を覚悟しました。

最終的に7000人中約1000人の最終合格者に残ることができましたが、合格発表までの間、不安でとても怖かったです。しかし、合格できたことで自信がつき、その後の関東地方整備局での採用面接に落ち着いてのぞむことができ、無事に合格することができました。

就職希望者は進路選択の幅が狭いように感じても、自分のやる気と努力次第で選択肢を増やすことができるのだと思いました。様々な事情で行きたい進路へ行けない人も多くいると思いますが、限られた範囲の中から自分が努力し続けられる職を見つけて欲しいと思います。また、私が今回合格できたのは支えてくれた友人や家族、先生がいてくれたからです。周囲に支えてもらっているというありがたみを感じることができた半年間でした。1,2年生のみなさんも自分を支えてくれている人がいるという環境に感謝の気持ちを忘れず、進路達成のために頑張ってください。

青森明の星短期大学 31HR 乳井大空

青森明の星短期大学は、来年の4月からむつ市にキャンパスを新設し、下北で唯一の大学・短大となります。むつ市に学校があれば、寮に住んだり、長距離を移動したりする事がなくなり、時間やお金を有効に使えます。また、短期大学であるため必然的に4年生の大学より早く安く自分の目標に近づく事ができると考え、志望校にしました。

私が進学するのは保育専攻で、その道に進もうと考えたのは、中学生の頃にテレビなどで現在の教育の実態や待機児童などの諸問題が話題になっている事に対して、将来の日本の未来を担う子どもたち及びその子らで構成される社会の手助けがしたいと考えたからです。

私は入学の際は書類審査のみでした。提出書類の中で、志望理由書を書く必要がありました。しかし、それを書くことが最も大変でした。理由は文章が上手くまとまらず何度も書き直したからです。私が書きたい事は沢山ありましたが、限られた文字数でそれをまとめるのは非常に難しく感じました。

また、特待生試験では小論文や面接があり、本番の面接となると頭や口が上手く回らないもので、言いたい事を全て話すという事はできませんでした。面接の際に上手く話せるようになるには、人前で話す習慣をつける事が大切だと思いました。クラスの代表で感想等を話す経験を積み、どんなことを聞かれてもすぐに答えられるような対応力、即応力を日常生活で身に付けると面接でも緊張もしなくなると思います。小論文でも面接でも、どんなテーマに対してもうまく対応できるようになる為に、日頃から様々な情報を取り入れておくべきだと思います。

12月末現在 3年生進路決定状況

	進学				就職			合計
	国公立大	私立大	短大	専門学校	県内	県外	公務員	
男子	0	0	1	10	4	5	2	22
女子	1	3	1	12	2	0	3	22
合計	1	3	2	22	6	5	5	44

「進路指導部から」

新時代の幕開け

文責:高橋 理恵

今は年の瀬。もうすぐ令和元年が終わろうとしている。今年一年のビッグニュースは多々あるが、その中でも今年5月から新しい元号、令和になったことは間違いなくトップクラスのニュースであろう。承知の通り、日本の元号は天皇陛下の在位期間を表す。今回、とりわけ注目すべきは、平成天皇がまだ生存なされている間に退位された上で新しい天皇にその座をお譲りになり、元号が変わったことである。つまり、言い換えれば、本来は天皇陛下はお亡くなりになるまでが在位期間であり、お亡くなりになって初めて新たな元号となるのである。では、平成はどのように開幕したのか？ちょうどその瞬間を私は目の当たりにした。次のようなエピソードである。

昭和64年1月7日、当時私は仙台の某予備校で浪人生活を送っていた。前の年、私は受験した大学をすべて落ち、やむを得ず1年予備校に通うことにした。ちょうど、共通一次試験(今で言うセンター試験)が間近に迫っており、直前講習が実施されていたが、少しでも良い席をゲットするために、予備校生は夜も明けぬ早朝から入り口に並び、座席の争奪戦を繰り広げていた。もちろん、私もその中に参戦し、この日は5時半に当時住んでいた予備校の寮を自転車で出発し、首尾よく座席をゲット、朝食に間に合うように戻ってきた。玄関をくぐるとすぐに、寮の職員が私に声をかけてきた。

「天皇陛下が危篤だそうですね。」

当時、昭和天皇が長期間体調不良の状態にあったので、さほど驚きはしなかった。ところが、朝食を食べ終えて登校しようとした時、別の職員の方が、

「高橋さん、天皇陛下が亡くなったそうですよ。」

朝食を食べて登校準備しているわずか数十分の間に、事態は急変した。翌日、当時の内閣官房長官だった小淵恵三が、新元号「平成」を伝えた。

たった1週間だけ続いた昭和64年。天皇崩御(ほうぎよ:天皇陛下がお亡くなりになること)の瞬間、慌ただしく発表された平成。何もかも、今でも強烈に印象に残っている。

余談であるが、予備校の授業でも天皇崩御が大きく話題になり、当時の古典の講師が天皇崩御を表す単語をいくつか紹介してくれた。今だに覚えているのは「お隠れになる」「御参る(おんまいる)」。

全学年 1月冬期進学講習:1月8日(水)~10日(金)8:30~
※2年公務員講習:1月7日(火)~ 8日(水)8:30~
参加予定者は忘れないようにしましょう。

人も植物も

文責:村岡 需

大学を卒業する時、しばらくは農家として生きていこうと考えていました。いずれは教員になろうと思っていましたが実家が農家だったこともあり、3年間は農業に携わりました。下北に住む皆さんには農家はあまり馴染みがないかと思いますが、青森県全体で考えると農家(兼業農家を含め)は多いのではないかと思います。私の農家時代は主にヒマワリを栽培し、その他に野菜や違う花を栽培し出荷していました。ヒマワリ栽培と言うと、よく「種をとっているの?」と聞かれますが、切り花としての観賞用のヒマワリです。簡単に言うと花束にしたり、生け花にしたりする花といった感じです。喜びを感じたことは友だちの結婚式やプロポーズに自分が育てたヒマワリを使ってもらったことです。人生の一大イベントに文字通り花を添えることができたのは良い思い出です。

ところで、花を育てるために肥料や水を与えるわけですが、どのくらい与えるかという管理が難しいものでした。栄養をたくさん与えると良い花(花に良いも悪いもないですが、ここでは出荷に適した綺麗な花)になるというものでもなく、栄養を与えすぎると大きくは育つが、茎がふにやふにやになり軟弱な花になりました。逆に与えなさすぎるとあまり成長できず花を咲かせる前に枯れることもありました。定期的に農薬を散布し、害虫(蝶々や蛾やカメムシ等)やウイルスを防除し、幼虫に花や葉を食べられないようにしています。そのように環境を整えて、あとは日照時間や積算温度などの条件が合えば花は成長してくれます。水に関しては、発育の段階によりますが必要最低限しか与えないように気を付けていました。根も呼吸をしていて、土に水がありすぎる状態が続くと窒息し、根が腐ってしまうのです。花が立派に育つには細かい根をたくさん生やすことが大切で、少し厳しめな環境にすることで自ら栄養を求めて根を伸ばしていくのかなと思います。水や肥料など多くを与え、過剰に与えらる状況だと軟弱なものに育ちます。これは花も人間も似ているところが多くあると思います。高校生の時期は保護者にも教員にも環境を整えてもらい、多くの根を生やすことができる時期だと思います。人生で綺麗な花を咲かせるためにも、自ら様々なことを吸収できる根をより多く生やしてくれることを期待しています。

むつと大間を繋ぐ道路を車で走っていると、海辺にある大きな岩に木が生えている光景をよく見ます。大間町の木にも指定されているクロマツのようですが、岩の上で海風にさらされる厳しい環境にも関わらず生えているその生命力には驚かされます。土の上でもない場所に生えてあんなに立派に立っているのが不思議です。生きるために根から酸を出し岩を溶かして、栄養分を吸い上げながら根を岩の中に伸ばすそうです。強風を柔軟に受け流し、岩の上だとしても力強く根を張るあのマツのように生きていきたいものですね。

「2019年、お疲れ様でした。よいお年を」